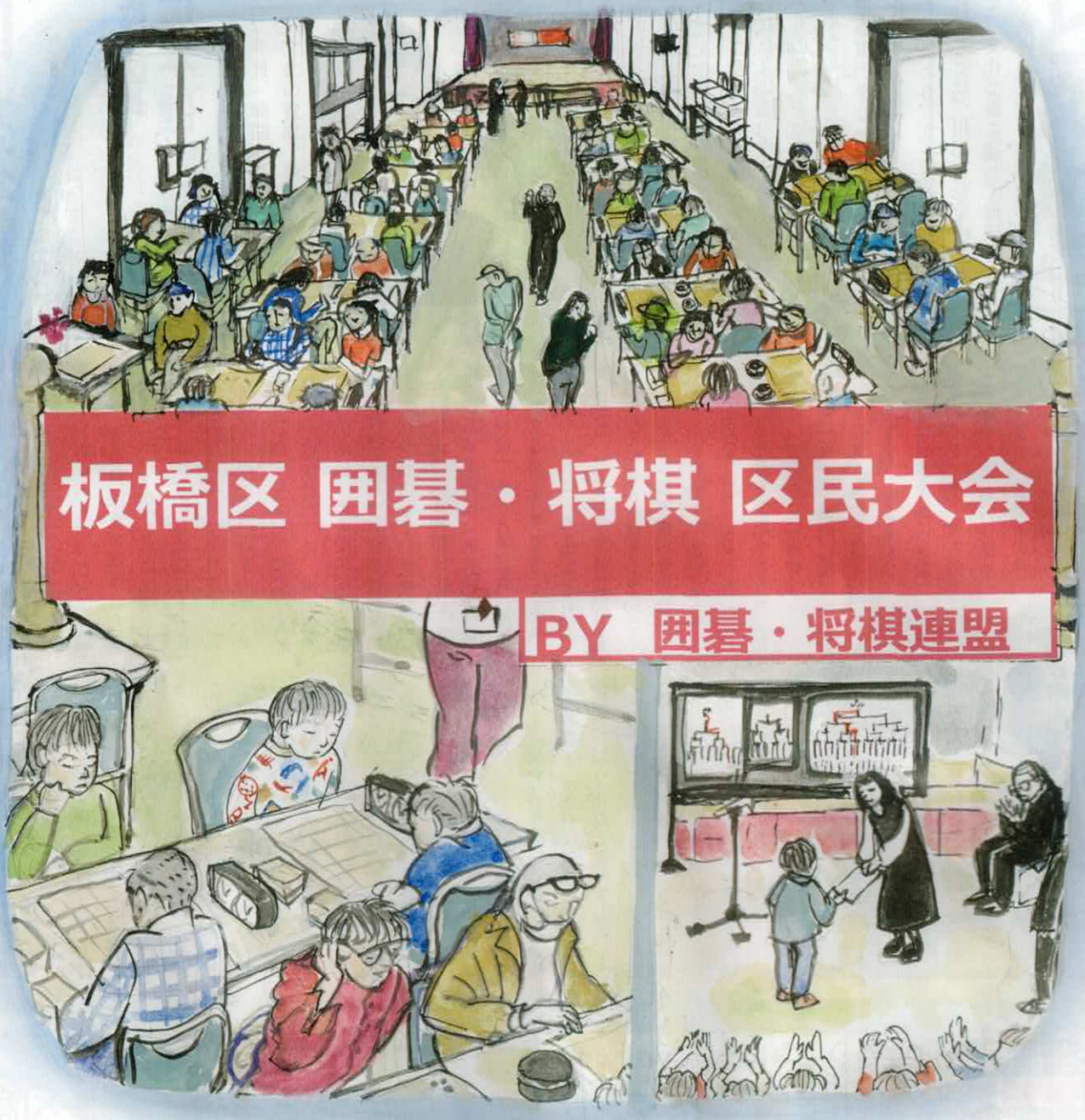
令和８年10月１日発行

いたばしの文化

発行：板橋区文化団体連合会　会長：川口 雅敏　編集：板橋区文化団体連合会広報部



第60号

CONTENTS

題字：板橋区長　坂本 健

02　ご挨拶、板橋温故知新
03　令和８年度板橋区民文化祭
04・05　文化を楽しむ暮らし
06　いたばしを伝える
07　文化コラム
08　人間模様

会長挨拶

板橋区文化団体連合会
会長 川口 雅敏



今年度、文化連は創立53年目を迎えますが、改めて、日々の生活に「文化」という存在が欠かせないことを実感しております。2年後に迫った55周年の節目を前に、これまで以上に板橋区民文化祭を中心に板橋区の文化芸術を盛り上げていく所存です。

そして、私たち文化連は、それぞれが板橋区の文化の担い手として、板橋区における文化の裾野を広げるとともに、地域の伝統行事を将来に継承し、文化を大切にする社会の実現のために、これからも力を尽くして参りたいと存じます。

今後とも、文化連へのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

区長挨拶

板橋区長 坂本 健



板橋区文化団体連合会の皆様には、日頃より区の文化芸術振興に多大なるご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。

区最大の文化の祭典である板橋区民文化祭をはじめ、長きにわたり、多彩な文化活動を牽引してこられた文化連の皆様は、区民一人ひとりの創意を原動力に、あたたかでやさしいつながりを作り出す「創造都市」を推進していくうえで欠かせない存在です。

今後とも、文化連の皆様におかれましては、川口会長を中心として、文化芸術を通して地域を楽しく活性化していくリーダーとして、より一層のご活躍を期待しております。

板橋にある秀吉ゆかりの地
「木下出世稲荷」

板橋区立郷土資料館
増田由貴

今年の大河ドラマに登場する豊臣家が活躍した場所として思い浮かべるのは尾張や大坂などですが、実は板橋にも豊臣秀吉ゆかりの場所があります。江戸時代のいわゆる旅行案内書である『五街道中細見記』（安政五年、一八五八、当館蔵）には、縁切榎や日曜寺の本尊である愛染明王と並び、「藤吉いなり」が板橋宿の名所として記されています。板橋宿のはずれ、智清寺（大和町三七－一）の境内にある小祠は、「木下稲荷」や「藤吉稲荷」などと呼ばれ、庶民の信仰を集めてきました。

伝承によれば、おまつりされている神像は、秀吉が木下藤吉郎と名乗っていた時分から信仰していたもので、大坂城落城後、大坂籠城の浪士である高松半平という人物によって智清寺にもたらされたとされます。その像を祭祀するため、元和三年（一六一七）に当時の住職によって、境内に稲荷社が建てられたと伝えられています。秀吉ゆかりの寺社は日本全国に多数ありますが、木下藤吉郎の名を冠したものは極めて稀であり、またその仲介者の存在が分かるものは他に類例がありません。

一八世紀以降、太閤記物の流行や、京・大坂など上方における秀吉ゆかりの寺社での開帳によって、秀吉を現世利益の神とする庶民信仰の高まりがあったことが知られています。同時期に江戸で流行した稲荷信仰に、上方の「秀吉」信仰が結びついたかのような伝承が当地に残っているのは、中山道の一番目の宿であり、多くの人々が行き交ったいわば江戸の出入口である板橋宿の地域性によるものではないかと考えられます。

なお現在の社殿は、昭和三五年（一九六〇）二月に再建されたものです。令和三年度に、神像（通常非公開）・手水鉢・碑文とともに区登録有形文化財となりました。大河ドラマにもあるとおり、秀吉の立身出世は並大抵の努力ではありません。出世稲荷のご利益にあやかりつつ、改めて日々の積み重ねを大切にされてはいかがでしょうか。



郷土芸能団体連合会
国指定無形民俗文化財
● 赤塚諏訪神社田遊び保存会
● 徳丸北野神社田遊び保存会
区指定無形民俗文化財
● 徳丸北野神社獅子舞保存会
● 赤塚諏訪神社獅子舞保存会
● 神田流神明囃子保存会
● 徳丸四ッ竹踊り保存会
● 大門四ッ竹踊り保存会
● 相模流荻原由郎社中
● 成増里神楽保存会
● 大門餅つき保存会
以上の10団体で組織しております。

板橋区茶華道連盟推薦
季節の和菓子
秀月堂
遊座大山商店街
板橋区大山東町四六－五
〇三（三九六一）七〇〇八



ぶらり、いたばし
まちあるき・イベント・グルメ情報は板橋区観光協会HPで！

株式会社長太郎不動産
Best choice for your life
東京都板橋区成増3-23-5
3930-0002(代)
www.choutarou.co.jp
成増・高島平・蓮根・本蓮沼・大山・平和台
春日町・光が丘・和光市・川越・若葉・坂戸

10月・11月の催し

催し	日程	会場
区民書道展	10月８日(木)～11日(日)	区立美術館
美術家作品展	10月14日(水)～18日(日)	区立美術館
阿波おどり大会	10月17日(土) 区民まつり参加	区立グリーンホール前道路
区民美術展	10月21日(水)～25日(日)	区立美術館
区民手打ちそば体験講座	10月24日(土)・11月21日(土)	志村コミュニティホール
バレエ＆ダンス秋の祭典	10月25日(日)	区立文化会館 大ホール
書家作品展	10月28日(水)～11月１日(日)	区立美術館
いけ花展	10月31日(土)・11月１日(日)	区立文化会館 大会議室
お茶会	10月31日(土)・11月１日(日)	区立文化会館 茶室・和室
秋の歌謡まつり	11月1日(日)	区立文化会館 大ホール
日本舞踊のつどい	11月３日(火・祝)	区立文化会館 大ホール
日本趣味のつどい	11月８日(日)	区立文化会館 小ホール
合唱のつどい	11月８日(日)	区立文化会館 大ホール
区民俳句大会	11月14日(土)	区立文化会館 大会議室
謡曲と仕舞のつどい	11月14日(土)	区立文化会館 和室
日本民謡のつどい	11月15日(日)	区立文化会館 大ホール
小倉百人一首大会	11月15日(日)	区立文化会館 和室
珠算競技大会	11月15日(日)	成増アクトホール
三曲のつどい	11月15日(日)	区立文化会館 小ホール
区民将棋大会	11月15日(日)	区立グリーンホール 2階ホール
ITABASHI音楽のつどい	11月22日(日)	区立文化会館 大ホール
吟詠剣詩舞区民のつどい	11月23日(月・祝)	区立文化会館 小ホール
民踊のつどい	11月23日(月・祝)	区立文化会館 大ホール
区民囲碁大会	11月29日(日)	区立グリーンホール2階ホール

令和8年度 板橋区民文化祭

お問合わせ

板橋区文化団体連合会事務局
☎ 3579 － 3321

最新情報はこちらから

板橋区公式ホームページ
https://www.city.itabashi.tokyo.jp/bunka/bunka/event/1052837/index.html

板橋区文化・国際交流財団ホームページ
https://www.itabashi-ci.org/cul/events/9920/

吟剣詩舞道連盟 五訓

一、詩を吟じて心身の健康に努めよう
一、詩を吟じて明るく楽しく元気よく
一、詩を吟じて青少年の育成に努めよう
一、詩を吟じて心豊かな社会づくりに努めよう
一、詩を吟じて幸せな人生を楽しみましょう

神田流 弥生囃子保存会

楽しみながら多くの仲間と
地域社会に
貢献してみませんか

丸山
3955-6985

板橋区合唱連盟

連盟行事
♪合唱フェスティバル(6月)
♪区民文化祭合唱のつどい(11月)

加盟団体募集中♬

木村 03-3934-6235

板橋珠算教育連盟

日本のミライへ！



文化を楽しむ暮らし

文化を楽しむ暮らし

囲碁将棋どちらも楽しい

囲碁将棋連盟　榎本一郎



昭和40年代…。叔父とよく将棋を指した小学時代。中学に入ると結構な数の将棋指しと楽しむことになりました。娯楽が少なかった時代に携帯性に優れた磁石の将棋盤セットが販売されるなど、今流行のボードゲーム文化の走りだったと思います。

これに対して、囲碁を指すようになったのは社会人になってからです。白黒の碁石が立派な碁笥（ごけ）に入り、携帯性とは程遠い存在でした。しかし、相対で盤を挟んで駆け引きする臨場感ある対戦は一味違うものです。是非、囲碁将棋連盟主催の定例会や区民大会に参加し、ひりつく臨場感を堪能してください。

始めてみればどちらも甲乙つけがたい楽しいゲーム。でも当時の個人的見解は、仕事場で昼休みに対戦するには、後戻りのきかない囲碁の方が決着をつけやすくストレスフリーだったと記憶しています。

今や囲碁も将棋も携帯性とは皆無な人気ネット対戦ゲームとなり、簡単に対戦を堪能できる環境になりました。しかし、



歌を楽しむ

歌謡連盟　小林健一

私たちの生活に深く根ざしている「カラオケ文化」は、単なる娯楽としてだけでなく、日々の暮らしを豊かにし、心身をリフレッシュするためのツールとして多くの人々に愛されています。そして、体一つで今日から始められる圧倒的な手軽さがあります。歌が好きであればいつでもすぐに楽しむことが出来ます。歌を歌う会（歌謡連盟）の最大の魅力は、年齢やバックグラウンドを超えて、という共通の言語を通じて、会話が人と人をつなぐ高い親睦性にあります。また、上手な人の歌を間近で見たりしたり、コツを教わったりすることで、自然に歌唱力がアップし、自分では普段聴かないジャンルの曲を知ることで音楽の幅が広がり、歌のレパートリーが広がります。

そして、私たちは、時に（特にステージ上で）歌を歌っているときに、爽快感を感じることがあります。これは科学的には「幸せホルモン」が大量に放出されている証拠であるとみられています。



年齢の枠を超えて楽しむ

吟剣詩舞道連盟　井原神笙



日頃楽しんでいる文化・芸術活動、趣味活動などについてとなれば、そのすべてにあてはまるものは詩吟です。父・母に継いで私が三代目の会長で、本年五月十七日に七十周年記念大会を終えたばかりです。総勢百二十名の華やかな会場となりました。老若男女・小中高生から最高齢は九十歳が三名。花束贈呈を致しました。稽古日は毎日です。不思議なことに途中で退会するということはほぼありません。病気・入院でも、愛験でも声変わりでも必ず戻ってきます。これも詩吟の魅力でしょうか。詩吟は学問なのです。学ぶことに年齢の壁はありません。詩吟は単なる歌唱ではなく、漢詩・和歌・俳句の精神、教訓を深く理解し、何よりも題材となる漢詩は、時代背景、歴史的背景など、限りない興味を持たせてくれます。さらに自らの声に乗せて自らの思いを表現できる。何とすばらしいことか。技術と表現は両輪、向上心を持って取り組んでいます。

板橋区
日本趣味の集い
日本舞踊、箏曲、江戸芸、端唄、長唄、琵琶、沖縄音楽、空手など、日本の伝統文化・音楽の様々なジャンルが集う団体です。
区民文化祭で一緒に演奏披露しませんか。皆様のご入会をお待ちしています。
若柳正樹
049-246-3783

ITABASHI
音楽振興協会
区内で音楽活動をしているサークル、団体等に発表の場を提供しています。
私たちと一緒に文化会館大ホールで思いっきり楽しんでみませんか。
まずはお問合せ下さい。
03-5980-8037 馬場

書道文化振興に邁進
書は人なり心なり
板橋区書道連盟
近隣の教室（先生）をご紹介いたします
会長　前田惣遠
☎03-3937-5049

伝統文化にのっとり
伝統文化を次世代へ
おもてなしの心と暮らしに彩りを
板橋区茶華道連盟
各種流派活躍中
連絡先　理事長切田宗順 3938-0182

新しい趣味を始めることは伝統文化を再認識したり人間関係を広げることにつながります。当コーナーでは趣味を通じて日々を充実させた方々や文化活動に邁進されている方を紹介します。

伝統文化を身近に

日本舞踊連盟　坂東若梢





私たちが日頃、伝統文化に触れあう機会を持つにはどのような方法、手段があるでしょうか。例えば日本舞踊の場合は、歌舞伎座や会館へ行って見るというのが一般的かもしれません。もう少し前でしたらTV番組でも放映されていましたし、もっと身近に友人、知人から案内をいただきお浚い会（発表会）を見に行くこともありました。

しかしコロナが流行り、感染症を防ぐために発表会が顕著に少なくなりましたし、更に追い打ちをかけるように大・小のホールを有する国立劇場が閉場しました。上演の場所だけを考えても伝統文化を継承していく環境が悪化しています。

いざ日本舞踊を習ってみたいと思っても、身近な場所で気軽に見ることが難しくなったのでは文化の継承はできません。最近では映画『国宝』の中で、若い主人公二人が美しい舞い姿で注目を集めましたが、まさにあのように観る方々に感動と憧れを感じてもらうことが、文化を次世代へ繋げる一つの方法だと思います。

来る十一月三日には、日本舞踊連盟が板橋区文化会館大ホールにおいて『日本舞踊のつどい』を開催いたしますので、お出かけいただき伝統文化を気軽に楽しんでいただきたいと思います。板橋区民文化祭は、日本舞踊連盟を始め、さまざまな日本の伝統文化と触れ合うチャンスです。

少年時代の百人一首

百人一首連盟　西坂栄二



私の故郷は九州です。

福岡県の炭坑町飯塚で80年前に産声をあげました。4人兄弟の次男坊です。

小学生の頃、まだテレビもない時代に娯楽と言えばトランプでした。毎年正月の遊びはトランプがほとんどでしたが、もう1つありました。百人一首を教えてくれました。今でもカルタは母譲りです。

現在の競技カルタはない時代です。バラに札を並べて取り、枚数を競う今で言う「チラシ」がほとんどでした。当時はまだ百人一首を知らない人が多く、ややレベルの高い遊びでした。兄弟の中では私がいつもトップでした。ライバルは妹でした。妹といつも取った枚数を競っていました。上の句を読んだら下の句を見つけその札を取ります。払ったりはしません。上の句を読まない限り下の句は分かりません。ところが妹は上の句の雰囲気で下の句を見つけ、取っていきます。理屈ではなく、雰囲気とカンで取っていくんです。未だに妹がどうして取れるのか私には不思議です。

子供の頃の百人一首は私の記憶力と妹のカンの戦いでした。

そのときの記憶は今も心に残り、百人一首とともに歩んできた私の原点となっています。



三味線の音色にのせて時空を旅する

民謡連盟　岡部朱美



最近の私の楽しみは、舞台や演奏を通じて物語の世界に浸るひとときです。先日、劇団四季のミュージカル『バック・トゥ・ザ・フューチャー』を観劇しました。最新の舞台装置がみせる時空の旅に息をのみ、生の音楽のエネルギーに心を躍らせました。

この「時空を超える興奮」は、実は私たちが愛する民謡や三味線の世界にも通じるものがあります。何十年、何百年と歌い継がれてきた民謡の一節を口ずさみ、三味線の弦を響かせるとき、私たちは一瞬にしてその唄が生まれた時代や遠くの情景へと旅をしています。先人の息吹が宿る生演奏の音色は、現代の劇場に負けない力強いパワーを持っています。

忙しい日々の中で、こうした文化に触れることは、私にとって心をリセットし、新しい刺激をもらえる大切な時間です。これからも伝統の音色を大切にしながら、さまざまな文化を楽しむ暮らしを続けていきたいと思っています。

板橋区民踊連盟
11月23日(祝)『民踊のつどい』
新舞踊・民踊・「舞い上がれITABASHI」など

＜文化会館大ホール、小ホール＞
問い合わせ：藤間090-6548-2039

区民文化祭
日本舞踊のつどい
日時　11月3日(火・祝)
13時開演
会場　区立文化会館大ホール
入場無料
出演者募集
問合　080-3734-0889(坂東)
板橋区日本舞踊連盟

板橋区美術家連盟

美術にあふれる板橋をめざして
代表　返町　勝治
03-3909-0621

板橋区俳句連盟
令和8年度板橋区民文化祭は11月14日(土)に区立文化会館にて実施いたします。
令和9年3月は俳句連盟主催の俳句大会を開催いたします。
投句も受け付けます。
また小学校の寺子屋にて俳句教室を行っています。
会長　上田桜　☎090-2249-6399

いたばしを伝える

私たちの踊り

大門四ツ竹踊り保存会
本橋玲子

大門四ツ竹踊りは、明治・大正期にかけて、盆踊りとして松月院の参道で踊っていましたが、一時下火となりました。しかし、昭和50年代に地元の有志の方々のご尽力の下、練習が再開、本保存会は平成3年、板橋区の無形民族文化財指定団体となり、今日に至っております。

現在は、「板橋農業まつり」「いたばしの郷土芸能」への参加、赤塚諏訪神社天王主様のお祭りでの踊りの奉納を主に、月1回の練習を重ねております。わが保存会も参加者の高齢化や新規参加者の減少という問題を抱えています。保存会メンバーの努力で、少人数ではありますが新規参加者もなんとか増えて練習と交流を重ねています。





大門四ツ竹踊りは「伊勢音頭」「田植え歌」「相撲甚句」「ヤッサカ踊り」の4曲です。初めて聞かれる方には、いにしえの曲調が単調で、同じような曲調に聞こえるようですが、我々踊り手にはそれぞれかなり違う曲調・踊りです。好みの曲もそれぞれ違い、その違いも楽しんでいます。

伝統芸能と言うと、現代の若い人々には古めかしく思われるものです。しかし、世界を見渡すと、国々の文化を形作り、その国の特徴を表すもので、長年大事に守って継承しているお祭り・踊りなどが沢山存在していることを、テレビ等で拝見します。海外の祭りばかりクローズアップされがちですが、日本の歴史を作ってきた祭り、芸能にも目を向けられることが増えることを願い、その歴史の継承の一助となっていきたいと思います。

一千年の祈りを次世代へ
―徳丸北野神社の田遊び―

徳丸北野神社田遊び保存会
大野鎮男

徳丸北野神社に伝わる「田遊び」は、長徳元年（995年）に始まったとされ、一千年以上の歴史を持つ国指定重要無形民俗文化財です。毎年二月十一日、境内に設けられた「もがり（舞台）で、その年の五穀豊穣と子孫繁栄を祈り、稲作の全工程を唄と所作で神前に奉納します。

当日は朝から保存会員、天神講役員、町会女性部が準備にあたり、六十キロの米を搗いて鏡餅や道具を模した餅を作り、夜六時の開演を迎えます。舞台では、麻の羽織に袴姿の「大稲本」「小稲本」を中心に、稲を象徴する幼児の「早乙女」や「鍬取り」たちが宮太鼓を田んぼに見立て、田打ちから稲刈り、倉入れまでを演じます。



農村だった徳丸も今では街へと姿を変えましたが、裸電球に照らされ真剣な眼差しの姿には、今も土と共に生きる人々の魂が宿っています。

一千年受け継がれてきた祈りの形を次世代へ繋ぐこと。それが私たち保存会の使命であり、誇りです。地域の皆様の支えに感謝しつつ、これからも徳丸の郷土芸能を守り続けてまいります。

楽しみながら競技かるたを覚えていただけるよう、一緒に練習していければと思っています。皆様のご入会をお待ちしております。
板橋区
百人一首連盟
月3回　年会費 5,000円
会　長　春野香織
連絡先　itahyaku@gmail.com

板橋区阿波おどり協会

板橋区
囲碁将棋連盟

あなたのそばに
いつも民謡を
板橋区民謡連盟
民謡連盟会長
鈴木　弘
TEL3969-9705

邦楽囃子と文化と

日本趣味のつどい　会員
邦楽囃子方　二世　望月左喜三郎

邦楽囃子

昨秋、映画『国宝』が大きな評判を得ました。

その中で主人公が踊っている際、後ろで小鼓、大鼓、太鼓等を演奏しているのが邦楽囃子です。

そもそも日本人は、古来より四季を通して自然を愛で、雪音や蝶の羽ばたきのような音のないものも表現してきました。

囃子は、鳴物といわれる百以上ある楽器を駆使して、風音、雨戸を打つ雨滴、夕立、雷、寺の鐘、船出のドラ、鳥や虫の音、浪音、幽霊・妖怪の出現等の様々な情景を表現しています。

場所や時を表し、登場人物の身分や感情の高揚をも聞く人々の心に訴えかけます。

場面の転換や衣裳替え等の舞台の間（ま）を埋めたり、舞台効果を増す役割を担います。

このように、先人たちの積み重ねた工夫と技で囃子の文化が作り上げられてきました。



文化の変化と行儀

文化の育成、熟成には大いなる年月、時間が必要とされてきました。

ところが、昨今の若者には気軽さ、コスパの良さという要素の強い文化が主流になりつつあると感じられます。サブカルチャー（日本では、アニメ、マンガ、コスプレ、オタク文化など）がメジャーになりつつあります。

その結果、文化の範囲が幅広くなり、「お弁当文化」や「移動文化」などの言葉も散見されるようになって来ました。

このように、文化のなり方に違いがあってもそこに流れる心は同じであるように思われます。

『役者論語・舞台百箇条』（役者杉久兵衛の書置き）の中に、「相手仕事なれば我は相手をたて、相手にたてられるようにさへすれば、舞台のおもてしっくりとなる…（中略）相手にかまはず、我ひとりあてん（あてこむ。人気を取る。）とするを、孤自当という。恥づべし。恥づべし」

これは舞台行儀というもので、絶えず舞台上の他者を気遣うと観客に感動をもたらすと書いており、囃子もしかり。

この考え方は、他の文化にも言えて、文化がひとの心を癒し、人々を楽しくつなぐのには、お互いを思う心が重要だといわれています。

バレエ&ダンス
秋の祭典No.38
2026年10月25日(日)
区立文化会館大ホール
16時開場 16時30分開演
若さ溢れる
ダンサーたちのステージ
板橋区洋舞連盟

板橋区謡曲連盟花伝会
区民文化祭 2026
謡曲と仕舞のつどい
11月14日(土)10時始
区立文化会館／第1第2和室
ご来聴歓迎
事務局 田辺 090-1253-9907

板橋区三曲連盟
箏・三弦・尺八の演奏団体
耳に聴こえるさわやかな音色
心にやすらぎを
伝統の音色を未来へつなぐ
関口雅美樹
03-3938-6096

美術家連盟のイベント
あいキッズ・
夏休みアート
山

海

文化祭の区民展と美術家展
両方に美術館で展示されます

人とまちを文化でつなぐ
板橋区
文化団体
連合会
〒173-8501
板橋区板橋2-66-1
板橋区役所文化・国際交流課内
☎3579-3321　FAX3579-2046
e-mail:kb-bk-kanri@city.itabashi.tokyo.jp

美味しいおそばを
打ってみませんか！
江戸流手打ちそば
二八の会
『まなぼーと成増』
または『まなぼーと大原』
そば教室・毎月2回開催
第1土曜日&第3日曜日／朝9時～
入会時
入会金：2,000円／年会費：1,500円
連絡先：岡節雄 090-5411-9962

みんなはつらつ元気に歌おう
としを忘れて楽しく歌おう
会員募集中
板橋区歌謡連盟
歌謡連盟会長　浅沼　久夫
事務局　板橋区成増3-1-7-101
成増アーバンライフ
03-5383-0078

太鼓と歩む人生

鼓粋若衆板橋轟太鼓　塚田誠さん

力強い音と視覚的なインパクトで国内外問わず多くの人を魅了する、日本の伝統楽器である和太鼓。今回は、板橋生まれ・板橋育ちで、公益財団法人　日本太鼓財団東京都支部所属、ＮＰＯ法人東京都太鼓連合理事、鼓粋若衆板橋轟太鼓会長・総師範としてご活躍の塚田誠さんにお話を伺いました。



太鼓との出会い

私は、生まれてから現在までずっと板橋で過ごしてきました。緑も多くて住みやすく、板橋から出たいと思ったことは一度もありません。そんな板橋で過ごす日々の中で、小学3年生の頃、前野町でやっていた盆踊りで太鼓を打っている人々の姿を見て、父に「太鼓をやりたい」と話しました。それが、太鼓を始めたきっかけです。その後、轟太鼓への加入が決まり、父が加入1週間もしないうちに買ってきた太鼓で、小さい頃は荒川の土手や赤塚公園などでよく練習をしていました。そして、気が付けば11年前、轟太鼓の会長となり、現在に至るというわけです。

チームへの思い

私が所属する鼓粋若衆板橋轟太鼓は、「ただひたすらに　この一瞬を、」をコンセプトに、昭和50年に「轟太鼓」として発足しました。11年前、私が会長になったときに「鼓粋若衆板橋轟太鼓」と名称を変更し、今年で発足51年目を迎えます。今では、5歳～60代の方まで幅広い世代の方で構成されているチームですが、私が20歳のときにチームの人数が極端に少なくなっていました。盆踊りの際、1人で太鼓を打っていた時期もありましたが、それではだめだと思い、チラシを自前で作成し、前野町1軒1軒にポスティングしたこともあります。その成果もあり、十数名の方が新しくチームに入ってくれました。そのときに入ってくれた内の1人が今の副会長で、その他にも、その際加入してくれた子が今ではチームを支える中枢メンバーとして活躍してくれています。



ただ、10人入って1人残れば良いほうと言うくらい、環境が変わる中で何かを長く続けるということはなかなか難しいことです。これは太鼓に限らず言えることですが、何かと出会い始めた経験は、たとえ途中でやめたとしても、出会えたこと自体が財産となるのでは？

なので、皆さんも何も気にせず気軽に始めてくれたらいいなと思います。

演者や指導者としての経験

太鼓と出会ってから、国内外問わず多くのイベントに参加してきました。海外では、レバノン、中国の北京、カンボジアで太鼓を打ちましたが、日本とは観客の反応が違うことに驚きました。静かに鑑賞する日本に比べ、海外では感情を表に出し、手拍子や指笛・声援がとても多かったです。このような反応は新鮮で、演者側として、一緒になって楽しんでくれてとても嬉しかったことをよく覚えています。



その中でも、特に印象に残っているイベントは、「Wヒーロー夏祭り2023」と「第1回板橋区盆太鼓コンクール」です。「Wヒーロー夏祭り2023」では、ヒーローの主題歌に合わせて太鼓を打ちましたが、あまりのお客さんの多さに珍しく緊張してしまいました。しかし、当時一緒に出演した娘はとても良い経験になったらしく、その後、太鼓の腕がみるみるうちに成長していきました。

また、平成8年に開催した「第1回板橋区盆太鼓コンクール」では、130人近くいた参加者の中で、私の所属するチームの子どもたちが多く入賞したことがとても印象に残っています。活動を続けていく上で、「自分の教え方は間違っていなかった」と指導者としての自信にもつながりました。

今後の目標

年齢的にも、メインで太鼓を打つ年齢ではなくなってきましたので、「後身の育成」を頑張っていきたいと思っています。一方、まだまだプレイヤーとしてもしがみついていたいという本音もあります。41年間人生をともにしてきた太鼓は、私にとってすべての中心であり、空気みたいなものです。

今後は、プレイヤーとしての活動と指導者としての役割の最適な配分を見出していき、生涯現役を目指していきたいです。



取材を終えて

美術家連盟　藤咲億桜

鼓粋若衆板橋轟太鼓の代表の方のお話は、聴き手の耳を通り、頭を巡って、体に響き渡りました。板橋の文化ここにあり